

淀川河川公園 上流域・中流右岸域整備計画案

1. 淀川河川公園 上流域の概況

(1) 現在の開園状況など

1. 現在の開園状況

- ・ 上流域全域では、「背割堤地区」「大山崎地区」「島本地区」の3地区が実施され、供用されている。

2. 基本計画に基づくゾーニングの状況

- ・ 上流域は、「自然環境保全・再生ゾーン」「水辺環境保全・再生ゾーン」及び「多目的利用ゾーン」が設定されている。
- ・ 「自然環境保全・再生ゾーン」は、水無瀬・楠葉などの未開園区域に設定されている。
- ・ 「水辺環境保全・再生ゾーン」は、全地区に設定されている。
- ・ 「多目的利用ゾーン」は、「背割堤地区」「大山崎地区」「島本地区」の淀川河川公園の既開園地区のほか、自治体の占用公園である「桂川河川敷公園」「かわきた自然運動公園」に設定されている。

3. 当面の整備計画検討の範囲

- ・ 今後およそ5年程度を目途として、整備・再整備を実施することが見込まれる以下の地区について検討をはじめることとする。

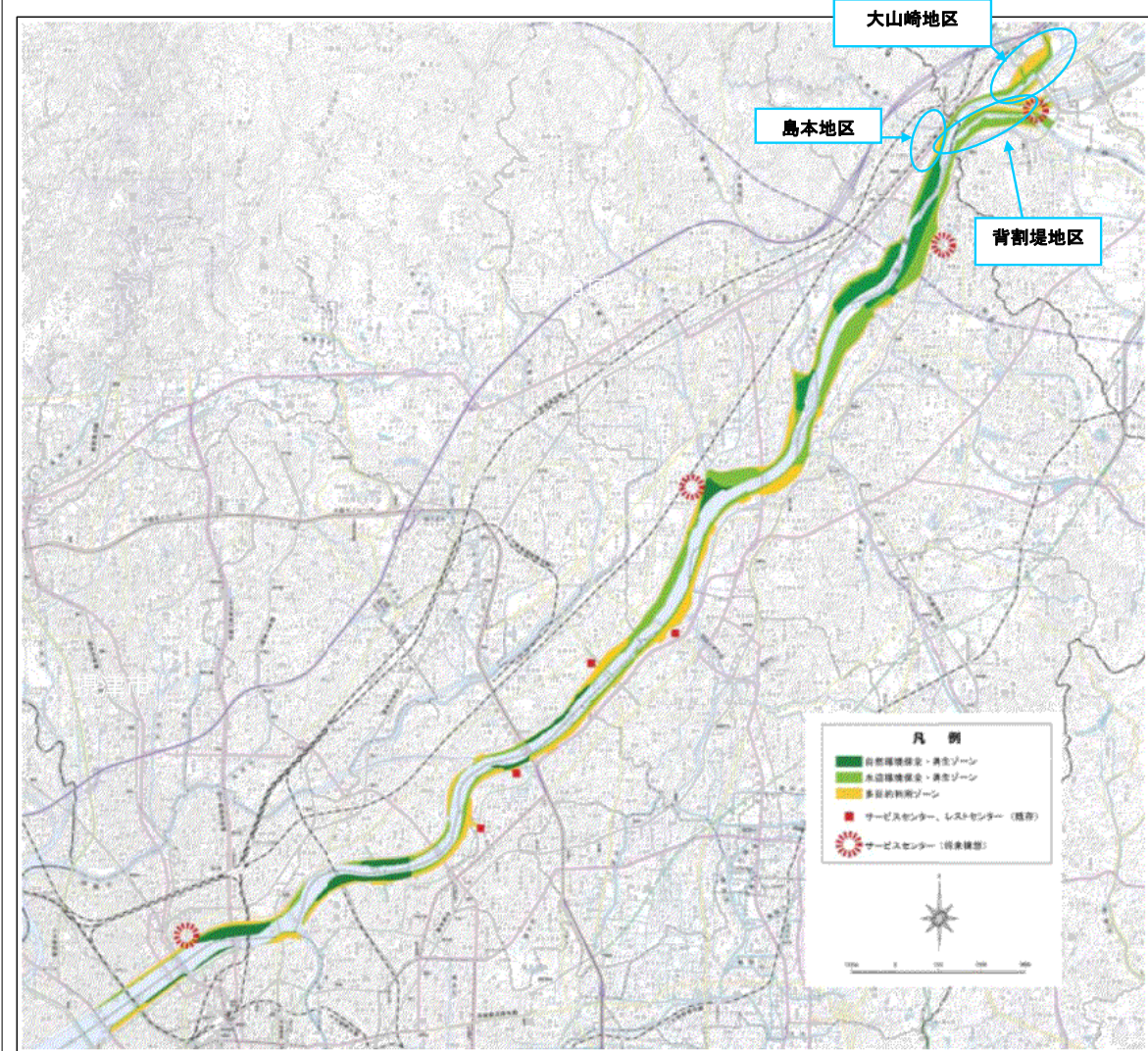
■ 背割堤地区

- 背割堤地区の既開園区域における周遊園路、水洗トイレの整備、未開園区域におけるサービスセンターの整備 など

■ 島本地区

- 既に開園区域における運動施設の多目的広場への転換 など

ゾーニング計画図



2. 各地区の現況特性・整備方針等

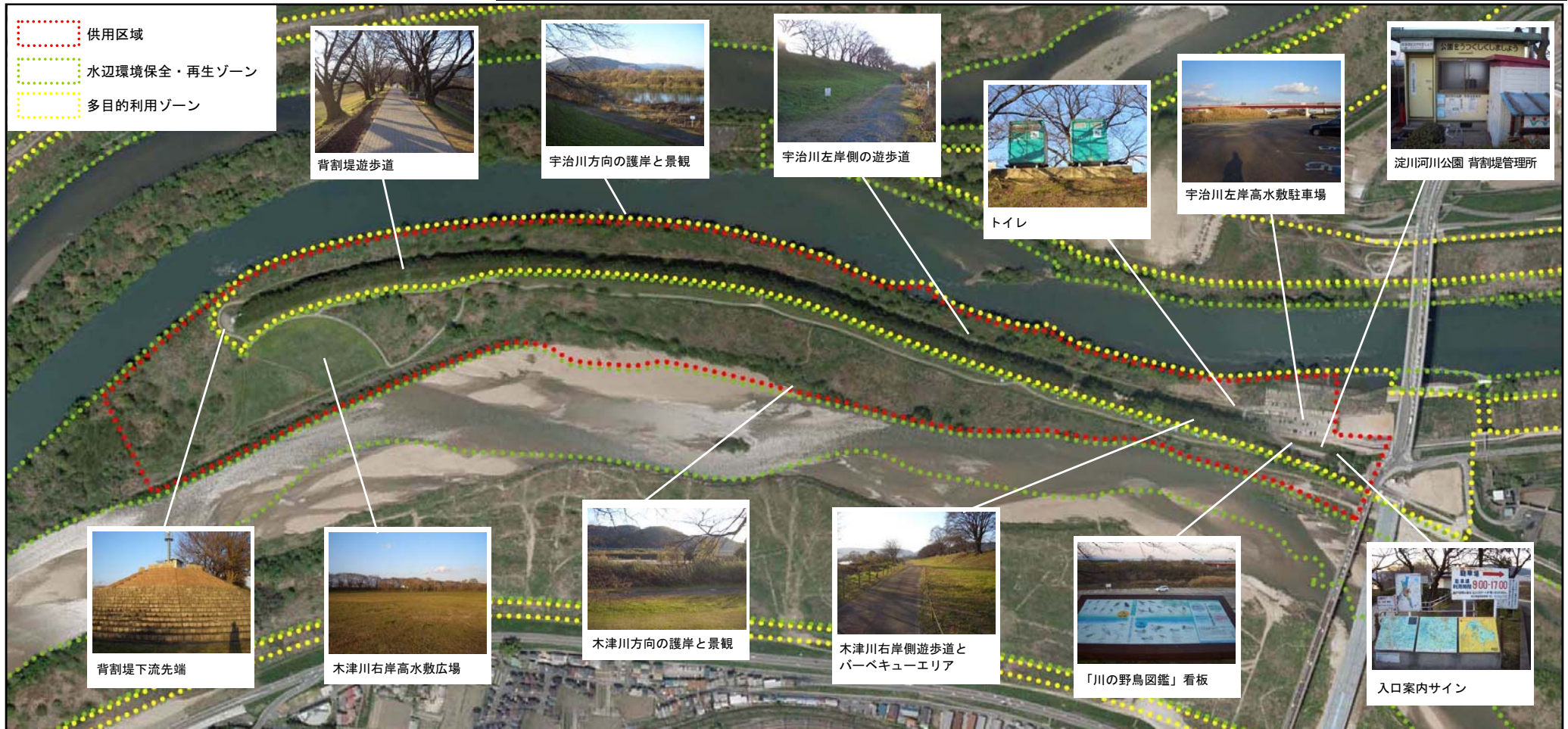
■ 背割堤地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

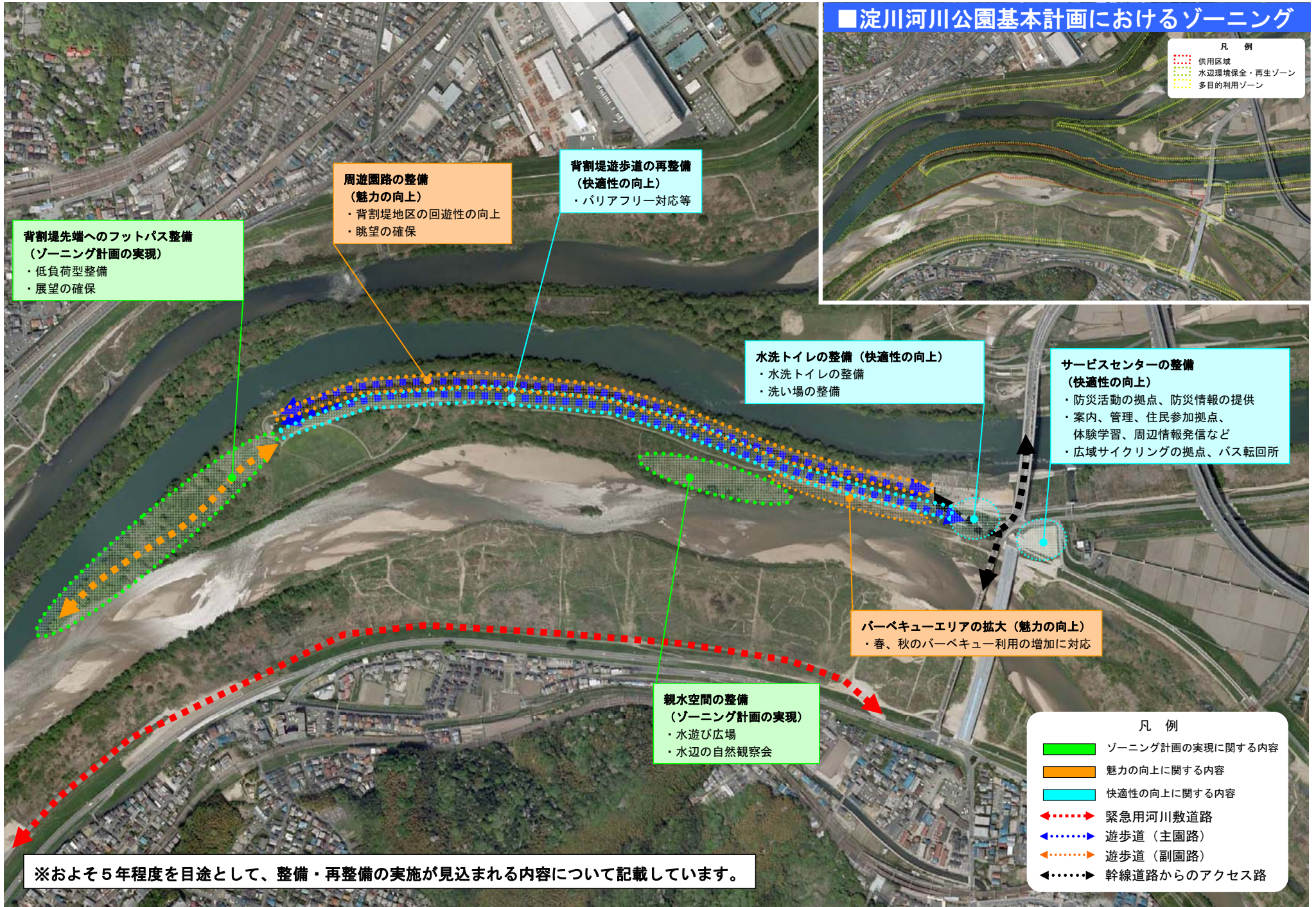
年間利用者数	平成20年度年間利用者数 278,501人 (うち219,578人は、4月(桜まつり実施月)に利用)
主な公園施設	桜並木約1.4km(桜約250本) トイレ2ヶ所、管理所1ヶ所

各視点からの現況

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 背割堤より宇治川側の多目的利用ゾーンに駐車場が整備されている。 便益施設(管理所、トイレ)は多目的ゾーン内、かつ堤防上に設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防上約1.4kmにわたリソメイヨシノが並木として植えられており、毎年4月の桜まつりには約20万人が利用している。 毎年春と秋に民間事業者による無動力船の川くんだりを実施されている。 桂川-木津川のサイクルルートの接続部であり、自転車愛好家がよく立ち寄っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上水道、下水道が敷設されていないため、水は地下水のみであり、非飲用となっている。 背割堤の遊歩道は小舗石舗装であり、車椅子等の通行には不適である。 木津川側の周遊園路の一部に段差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 京阪八幡市駅から約1km徒歩約15分の距離にあり、左岸側からの公共交通によるアクセスは良好である。一方、右岸側からは路線バスを含め有効な公共アクセス手段は整備されていない。 京都守口線(御幸橋)からのアクセスは左折のみであり、京都方面からは入りにくい。



■背割堤地区：整備計画図



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

■背割堤地区：主な議題

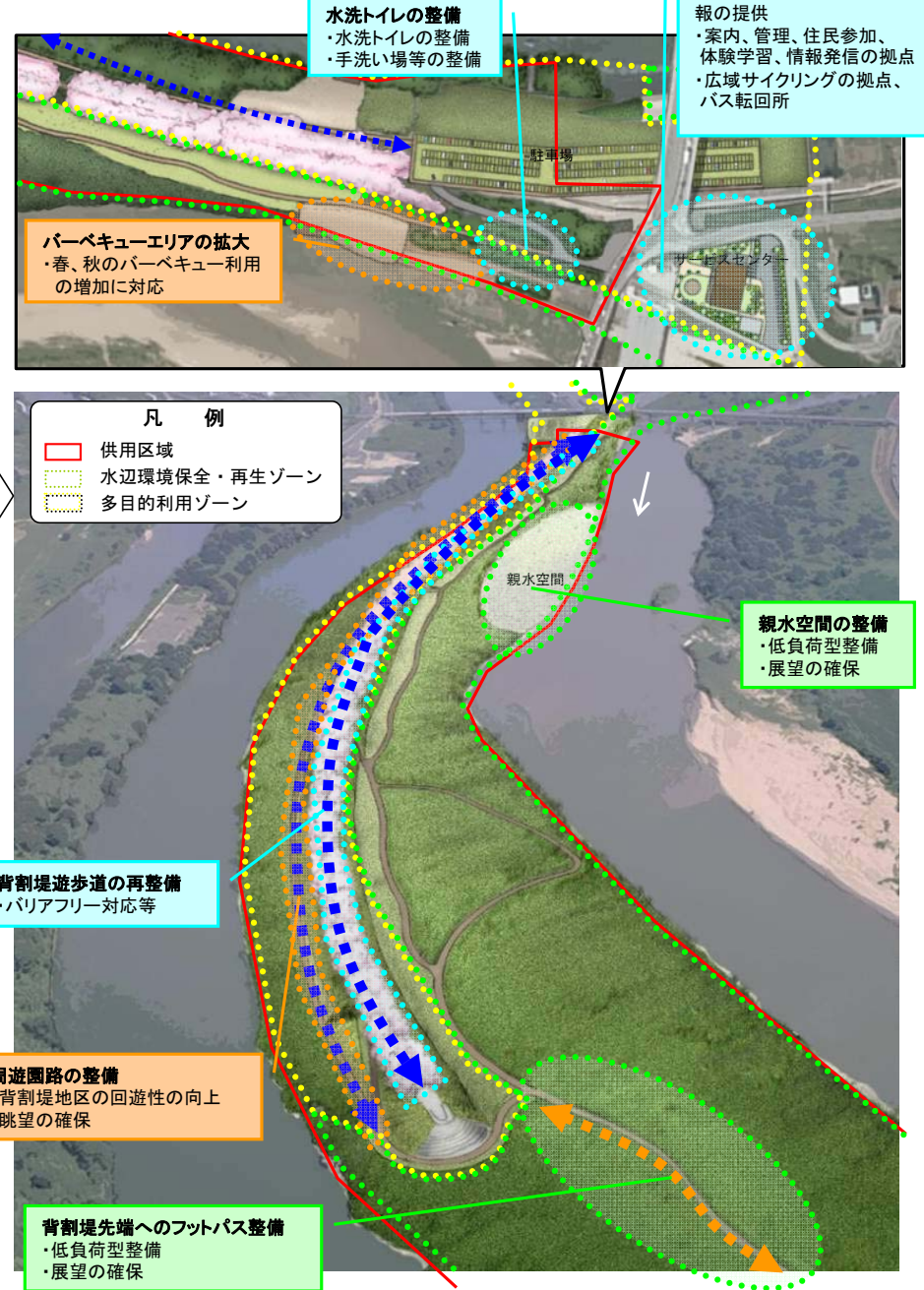
●主な議題(案)

提案内容	該当項目	提案理由
背割堤先端へのフットパスの整備	【ゾーニング計画の実現】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の背割堤先端部は、樹林に覆われ、合流点を見ることが困難な状態である。 自分の目で川の合流点を見える状態をつくり、魅力の向上を図るため、フットパスを整備する。
周遊園路の整備	【魅力の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の園路は、背割堤の堤防上と木津川側の堤防下であり、往復した時の景色の変化に乏しい状態である。 往路復路で宇治川と木津川の違いを楽しめるよう宇治川側に園路を整備し、周遊性を高めることとする。
背割堤遊歩道の再整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 現在の園路は、昭和50年代に整備された小舗石舗装であり、車椅子・ベビーカー等での利用に不適であるほか、複数の場所で破損・欠損が生じている状況である。 景観にも配慮をした上で、園路のバリアフリー対策を実施する。
親水空間の整備	【ゾーニング計画の実現】	<ul style="list-style-type: none"> 背割堤地区の木津川側については、砂州が拡がり、淀川河川公園の中では、水辺へのアクセスが行いやすい状況である。 今後、安全対策を含めて管理方法や利用プログラムを検討の上、水辺利用の推進を図る。
水洗トイレの整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 背割堤地区については、上下水道が敷設されておらず、飲用水の確保も出来ない状況である。 御幸橋の架替えに伴う水道管の敷設に併せ、水洗トイレ・手洗い場所等の整備を実施する。
サービスセンターの整備	【快適性の向上】	<ul style="list-style-type: none"> 上流三川の合流部であり、周辺道路網の整備もあり、三川合流部の周辺へのアクセス性は向上している状況である。 平時の地域交流の拠点機能と災害時の防災拠点機能を併せもった活動拠点の整備を実施する。

※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。

●整備イメージ



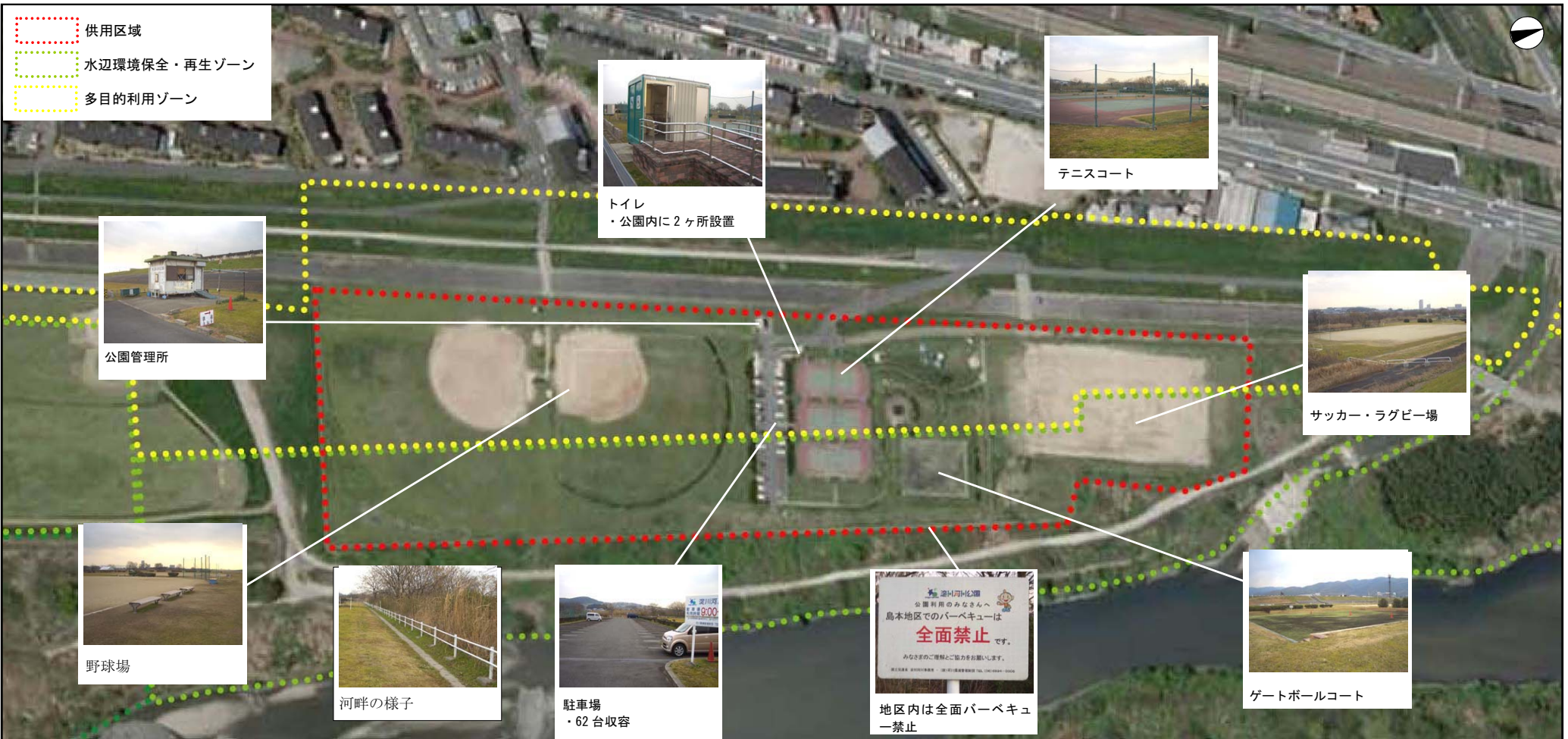
■島本地区の現状

年間利用者数と主な公園施設

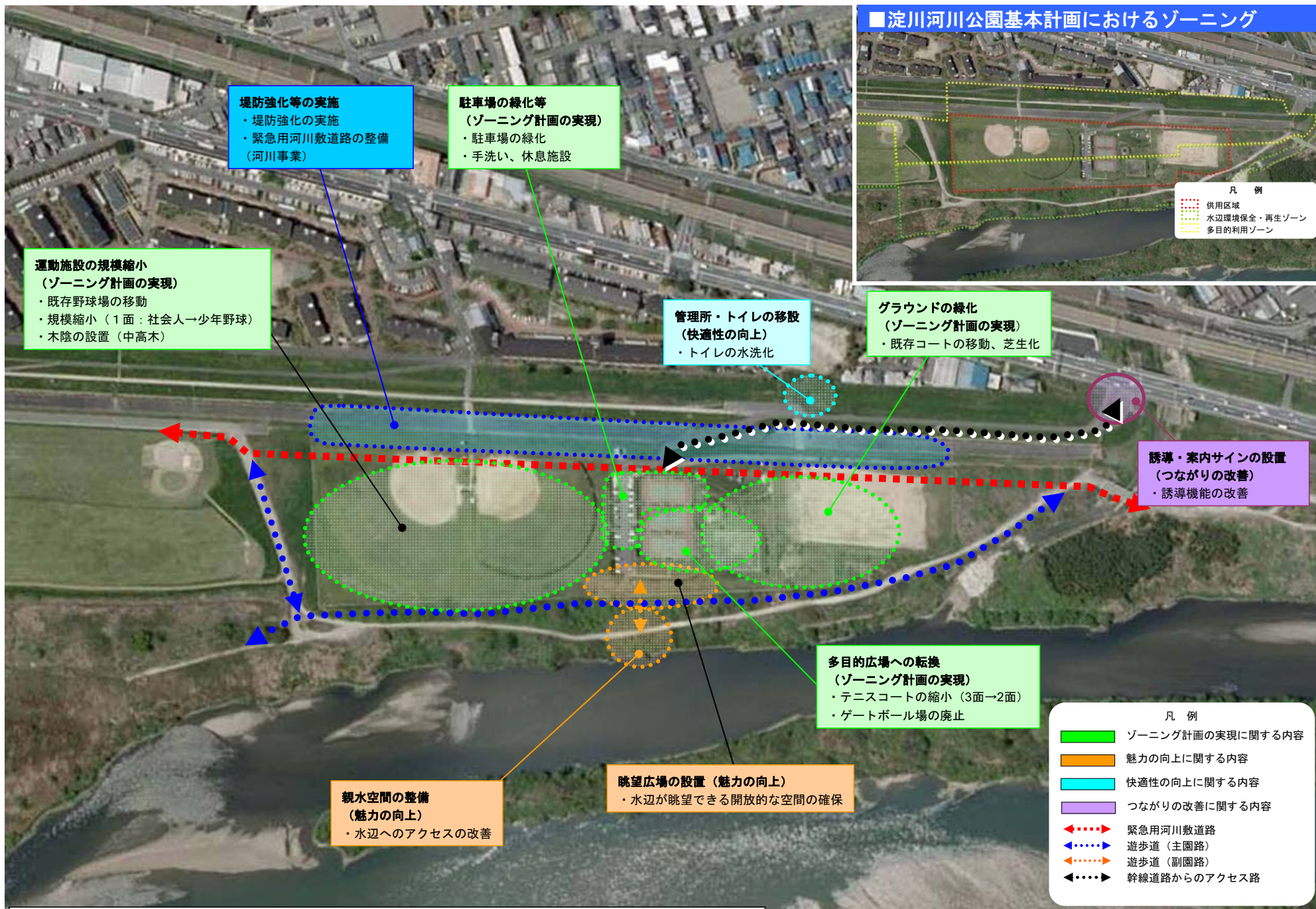
年間利用者数	平成 20 年度年間入園者数 67,837 人 野球場 15,206 人 テニスコート 3,188 人 サッカー・ラグビー場 11,348 人 人 ゲートボール 0 人 ※運動施設は内数
主な公園施設	野球場 1 面、少年野球場 1 面、テニスコート 3 面、 サッカー・ラグビー場 1 面、ゲートボールコート 1 面、 トイレ 2 ケ所、管理所 1 ケ所

各視点からの島本地区の現状

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 テニスコートの一部、ゲートボール場については、「水辺環境保全・再生ゾーン」内となっている。 隣接する堤防の堤防強化とそれに伴い緊急用河川敷道路の整備を行う計画があり、全体的に移設・縮小を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全長約 200m の比較的コンパクトな地区内に、野球場、サッカー・ラグビー場、テニスコートなど複数のスポーツ施設が整備されている。 自由に使える芝生広場はない。 バーベキューエリアの設定はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の整備時期が古く、利用上の不便さが顕在化してきている。 日陰のある休憩場所は整備されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急用河川敷道路は整備されてなく、川側の管理用道路は、未舗装のため上下流方向へのアクセスはあまりない。 堤防上は、舗装された歩道となっているため、安心して歩きやすい。 国道 171 号からの自動車での入り口を見逃しやすい。 園内には明確な園路がない。



■島本地区：整備計画図



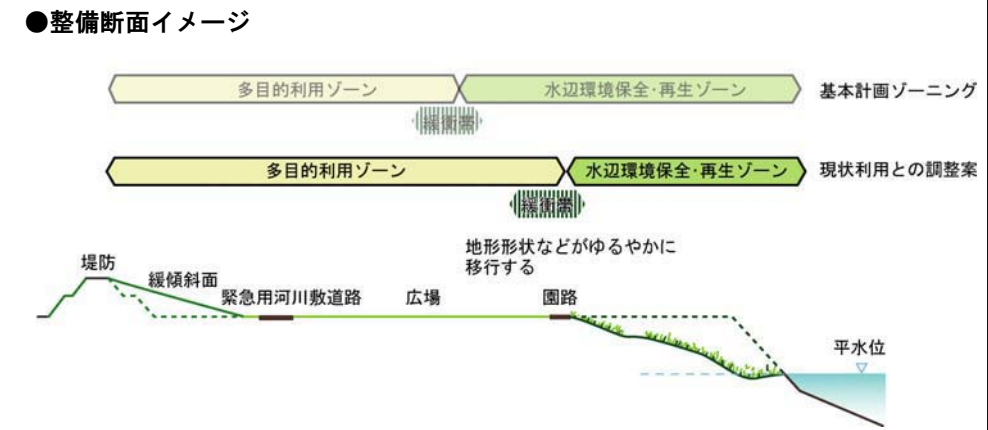
※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

■島本地区：主な課題

●主な議題(案)		
提案内容	該当項目	提案理由
堤防強化の実施、緊急用河川敷道路の整備	【河川事業】	・淀川水系河川整備計画に伴い、堤防の強化及び緊急用河川敷道路の整備を実施する。
運動施設の規模縮小	【ゾーニング計画の実現】	・河川事業に伴い、公園区域の縮小が予定されているため、既存野球場について規模の縮小を実施する。
駐車場の緑化等	【快適性向上】 【ゾーニング計画の実現】	・当初整備から相当年数が経ち、使い勝手が悪いことから、緑化駐車場への再整備を実施する。
親水空間の整備	【ゾーニング計画の実現】 【魅力向上】	・現在、川へのアクセスが無い状況であるため、川への視覚的・物理的アクセスの改善を図る。
眺望広場の設置	【魅力向上】	・川へのアクセスの向上に併せて、眺望のためのスペース及び休憩施設を整備する。
管理所・トイレの移設	【快適性向上】	・管理所を堤防上に移設することで視界を拡げ、管理効率の向上を図る。 ・堤防上にトイレを移設し、水洗化を図る。
運動施設の緑化	【ゾーニング計画の実現】	・現在裸地となっているグラウンドに対し利用状況の確認等を行った上で、緑化を図る。
多目的広場への転換	【ゾーニング計画の実現】	・近年、利用者の減少しているゲートボール場について、隣接するテニスコートの水辺環境保全・再生ゾーンと重複する部分と併せて一体的に多目的広場への転換を図る。

※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。



3. 参考資料

(1) 上流域の概要

1. 概要

・背割堤地区（八幡市）、大山崎地区（大山崎町）、島本地区（島本町）の3地区が供用されている。

2. 特性と課題

<自然・文化>

- ・三川と天王山や男山の緑が一体となった歴史的な景勝地。
- ・日本三大八幡宮の一つである石清水八幡がある。
- ・長岡京、平安京の時代から京都と大阪を結ぶ舟運が発達。また、西国街道、京街道など重要な街道も集まり、門前町として栄えた八幡や、油座を構えた山崎、物流拠点として発展した淀などの町が形成される。

<生物>

- ・ヨシ群落など多様な植物群落が見られる他、鶺鴒殿～三川合流地点では寄州と低水敷が発達。
- ・昆虫、鳥類、魚類等にて、多くの種類の生きが確認されるなど、豊かな環境が現存。

<交通>

- ・当地域周辺では、阪神高速を始め、京滋バイパス、第二京阪などの高速及びそのインターチェンジが多く存在。また右岸側は171号線、左岸側は1号線が京都と大阪を結び、周辺交通量は多い状況。
- ・JR山崎駅、阪急大山崎駅、京阪橋本駅・八幡市駅など複数の電鉄会社の鉄道駅が存在。一方、右岸・左岸を繋ぐ定期的な公共交通は整備されていない。

<観光>

- ・背割堤地区には桜の花見の時期を中心に、年間約20万人（平成20年4月）が来訪。
- ・周囲には石清水八幡宮や松花堂庭園、大山崎荘美術館などの観光資源が数多く存在。



天王山



男山



アオサギ



護岸へのアクセス



舟運



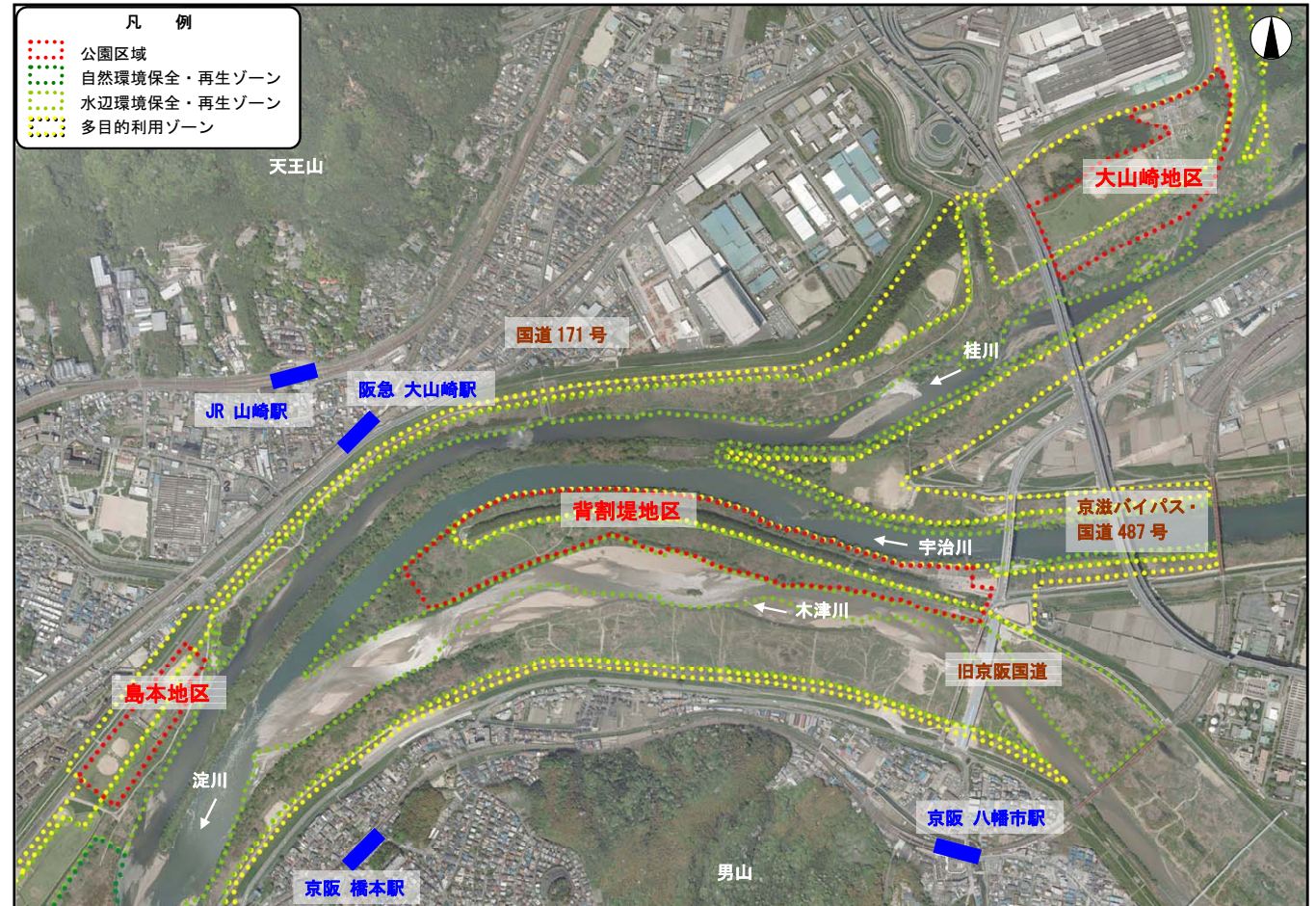
背割堤の桜並木



石清水八幡宮



大山崎山荘美術館



1. 淀川河川公園 中流右岸域の概況

(1) 現在の開園状況など

1. 現在の開園状況

- ・ 中流右岸域全域では、「一津屋野草地区」「一津屋河畔地区」「鳥飼西地区」「鳥飼野草地区」「鳥飼下地区」「鳥飼上地区」「三島江地区」「三島江野草地区」「大塚地区」の9地区が整備され、水際の切り下げを実施し、その後経過観察中である「三島江野草地区」を除く8地区が供用されている。

2. 基本計画に基づくゾーニングの状況

- ・ 中流右岸域は、「自然環境保全・再生ゾーン」「水辺環境保全・再生ゾーン」及び「多目的利用ゾーン」が設定されている。
- ・ 「自然環境保全・再生ゾーン」は、「鳥飼西地区」「鳥飼野草地区」の2地区に設定されている。
- ・ 「水辺環境保全・再生ゾーン」は、全地区に設定されている。
- ・ 「多目的利用ゾーン」は、「一津屋河畔地区」「鳥飼下地区」「鳥飼上地区」「三島江地区」「大塚地区」の5地区に設定されている。

3. 当面の整備計画検討の範囲

- ・ 今後およそ5年程度を目途として、整備・再整備を実施することが見込まれる以下の地区について検討をはじめることとする。

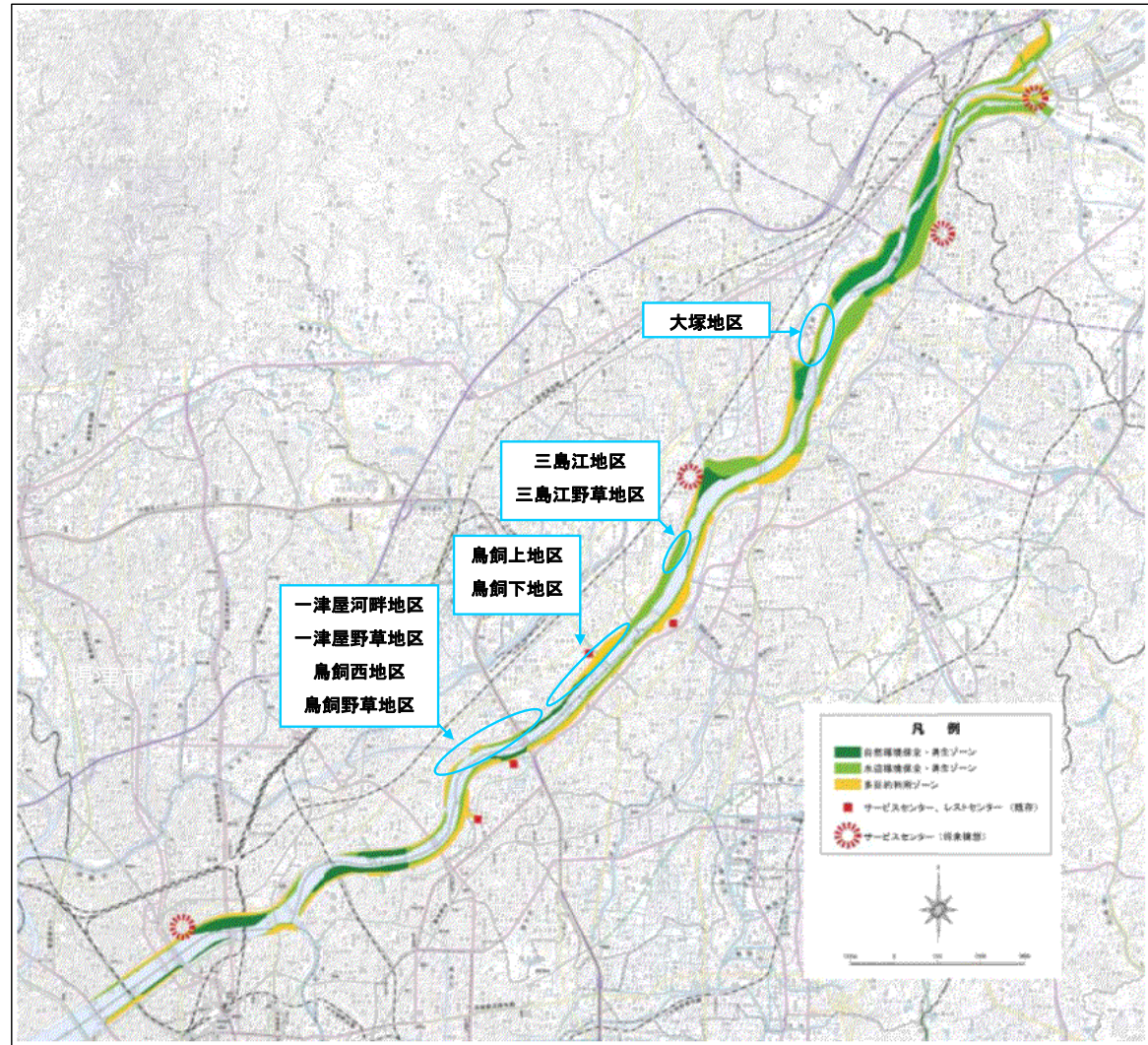
■ 大塚地区

- 水辺環境保全・再生ゾーンにおける切り下げの実施 など

■ 鳥飼下地区

- 鳥飼下地区未開園区域における多目的広場等の整備 など

ゾーニング計画図



2. 各地区の現況特性・整備計画等

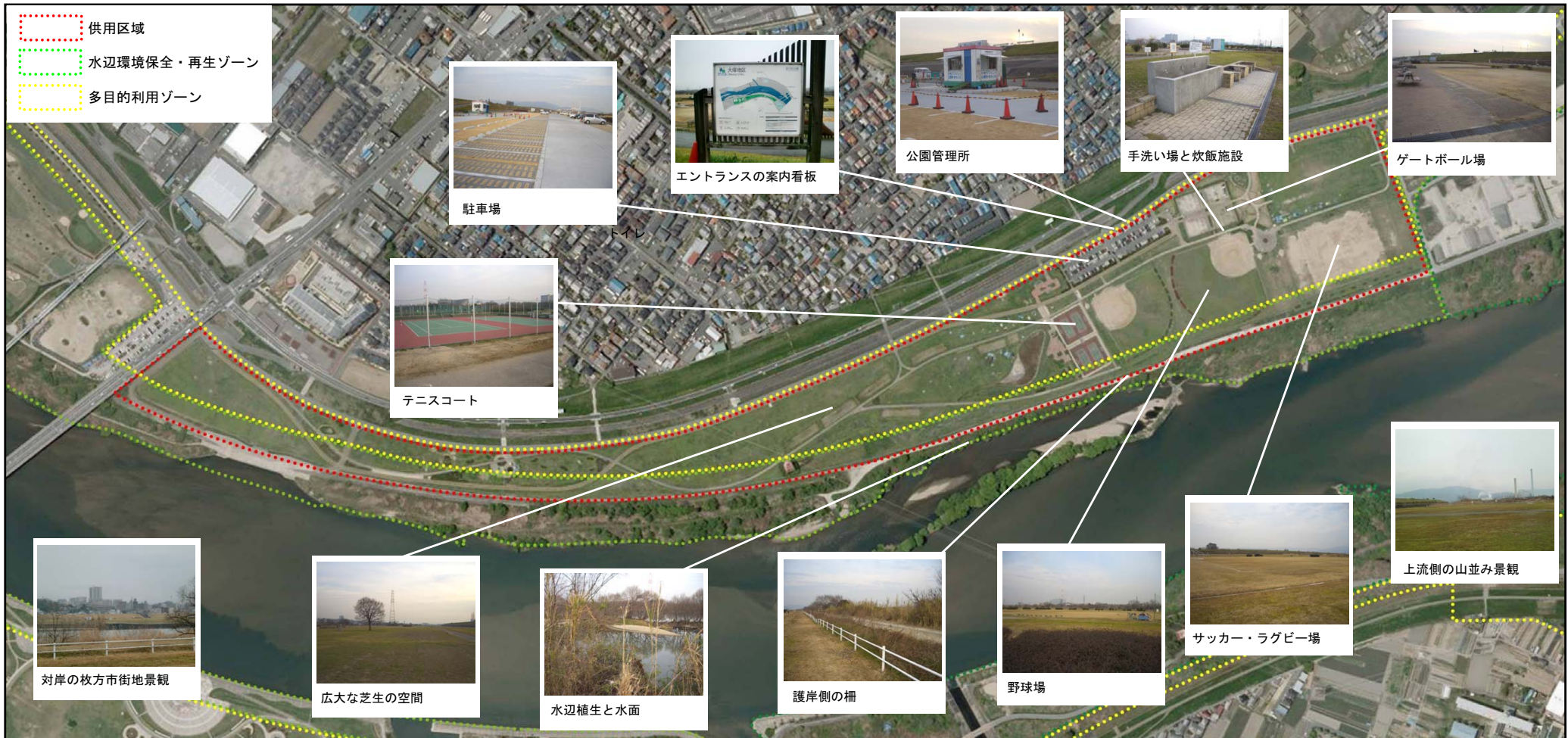
■大塚地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

年間利用者数	平成20年度利用者数 280,873人 野球場 18,346人 テニスコート 3,011人 多目的球技場 19,534人 陸上競技場 1,862人 ゲートボール場 0人 ※運動施設は内数
主な公園施設	野球場2面、テニスコート4面、多目的球技場1面、 陸上競技場1面、ゲートボール場4面、炊飯施設、芝生 広場、駐車場193台、トイレ7ヶ所、管理所1ヶ所

各視点からの現況

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、「水辺環境保全・再生ゾーン」と「多目的利用ゾーン」の2つのゾーンで構成されている。 運動施設の一部は、「水辺環境保全・再生ゾーン」内となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流部を中心に、運動施設が多数整備されており、年間約43,000人に利用されている。 自然環境・歴史文化に関わるような整備は行われていない。 下流部(枚方大橋付近)に緊急船着場が整備されており、イベント時に使用されている。 パーベキューエリアが指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全長約2.0kmと比較的縦長の地区となっているが、何力所かに分散して合計7基のトイレが設置されている。 シェルターが数基設置されているが、面積に比して日陰は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急用河川救急道路および園路により上下流方向への移動は容易。 堤防部は、兼用道路となっており、歩道は下流部の一部区間のみ。 近傍に鉄道駅は無く、枚方大橋のたもとにバス停が設置されている。 駐車場が上流部1箇所に整備されている。



■大塚地区：整備計画図

■淀川河川公園基本計画におけるゾーニング



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

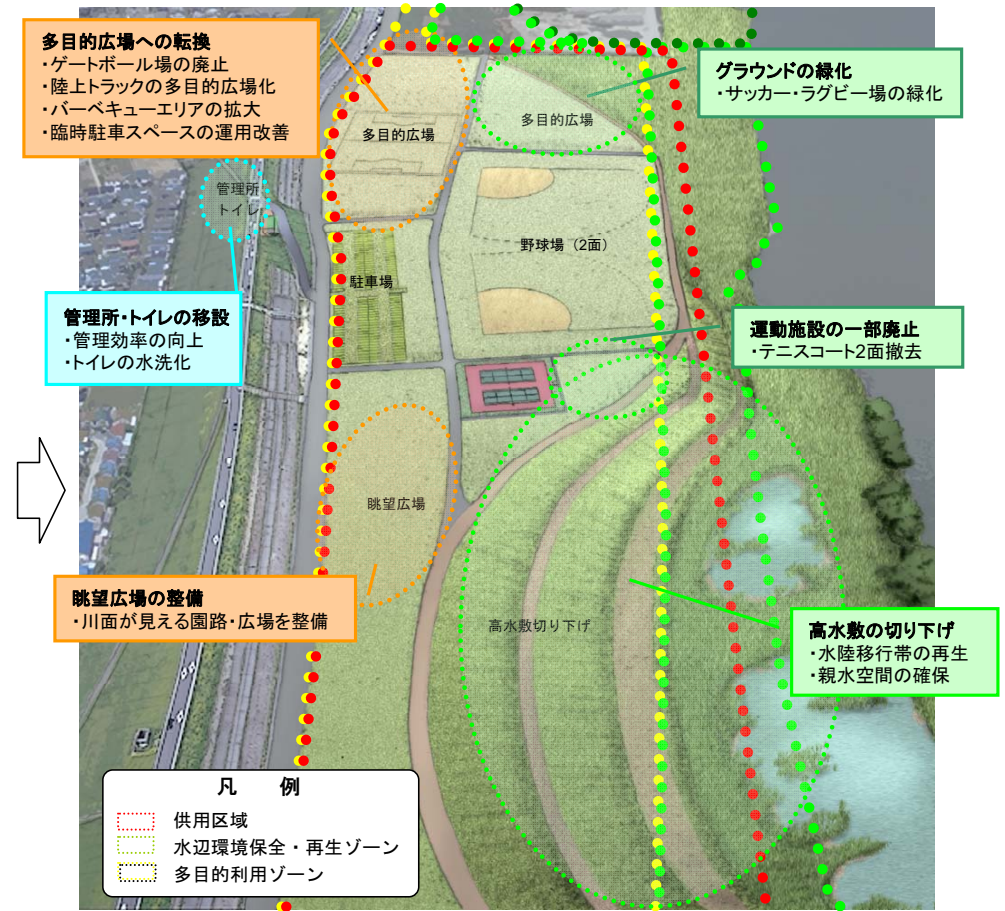
■大塚地区：主な議題

●主な議題(案)		
提案内容	該当項目	提案理由
高水敷の切り下げ	【ゾーニング計画の実現】	・大塚地区の水制工の跡地については、自然環境の再生と親水空間の創出を図るため、河川管理者と連携して水際の切り下げを実施する。
運動施設の一部廃止	【ゾーニング計画の実現】	・現在、老朽化のため使用中止のテニスコート2面については、高水敷の切り下げ対象範囲に該当しているため、廃止とする。
グラウンドの緑化	【ゾーニング計画の実現】	・川側の一部区域が水辺環境保全・再生ゾーンと重複しているため、グラウンドの緑化を図る。
多目的広場への転換	【ゾーニング計画の実現】 【魅力向上】	・近年、利用者の減少しているゲートボール場について、隣接する陸上競技場と一体的に多目的広場への転換を図る。 ・バーベキュー利用者の増加に対し、エリアの拡大を図る。 ・臨時駐車スペースの運用改善を行う。
眺望広場の整備	【魅力向上】	・高水敷の切り下げに伴い、川への眺望が確保されることから、休憩場所・園路を整備する。
管理所・トイレの移設	【快適性向上】	・管理所を堤防上に移設することで視界を拡げ、管理効率の向上を図る。 ・堤防上にトイレを移設し、水洗化を図る。

※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。

●整備イメージ



●整備断面イメージ



■鳥飼下地区の現況

年間利用者数と主な公園施設

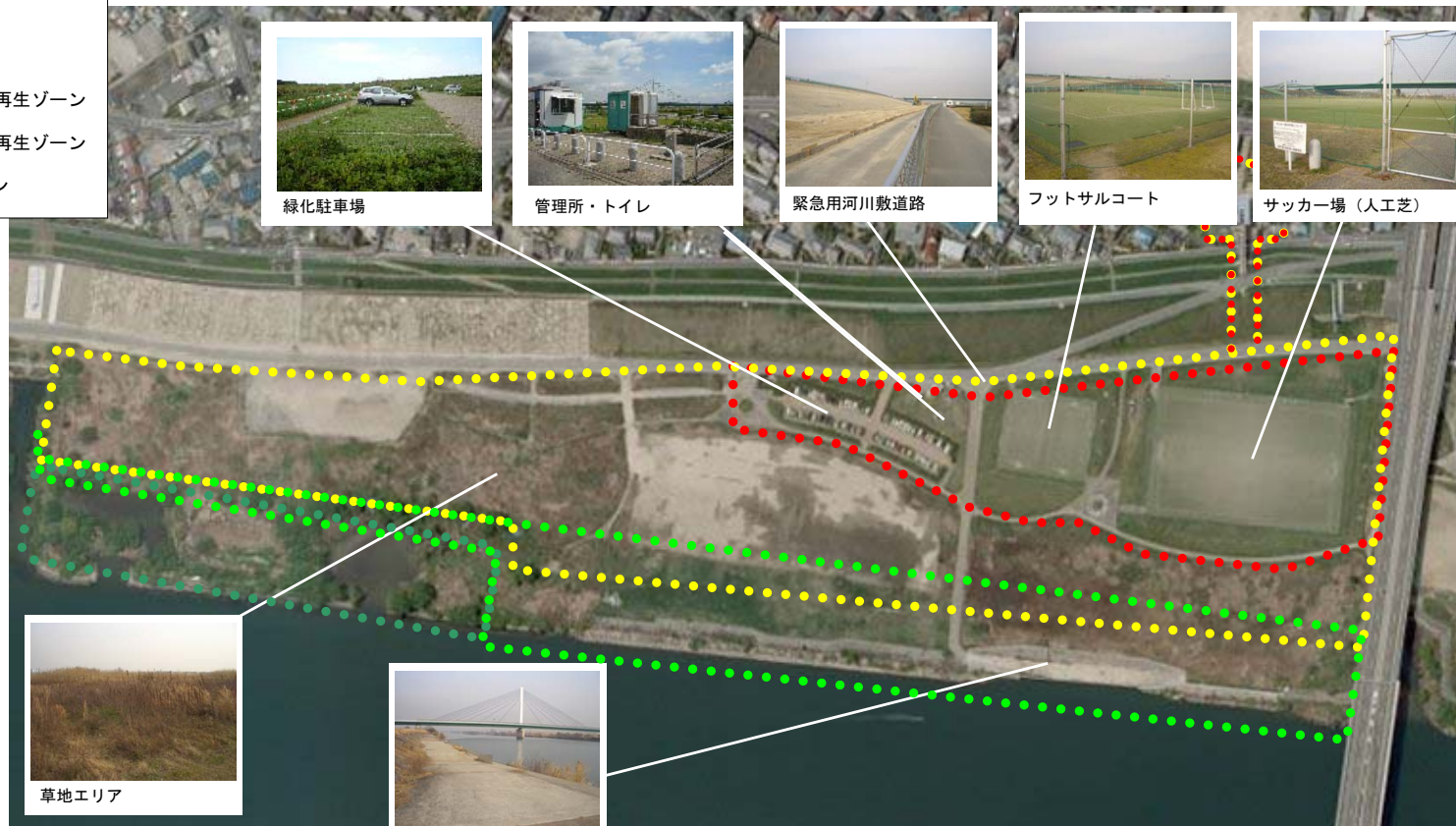
年間利用者数	年間利用者数 144,620 人 サッカー場 22,710 人 フットサル場 15,875 人	※運動施設は内数
主な公園施設	サッカー場（人工芝）1面 フットサルコート（人工芝）1面 駐車場 66 台 管理所 1ヶ所	

各視点からの鳥飼下地区の現況

	ゾーニング計画の実現	魅力	快適性	つながりの改善
現況	<ul style="list-style-type: none"> 現在の供用区域は、全て「多目的利用ゾーン」に含まれている。 「水辺環境保全・再生ゾーン」は、手つかずの状態となっているが、高木が生い茂るなど、近寄りやすい雰囲気となっている。 わんどが数カ所残っており、「自然環境保全・再生ゾーン」として設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上流の地区（鳥飼上地区）と併せて広大な敷地に多数の運動施設があり、活発に利用されている。 鳥飼仁和寺大橋が風景のアクセントとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防外に鳥飼サービスセンターがあり、堤防上と橋で平坦につながっており、利用者の利便性は高い。 全体的に日陰が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急用河川敷道路および園路により上下流方向への移動は容易。 堤防部は、基本的に車両は通行しないため歩きやすい。 近傍に鉄道駅は無く、公共交通はJR千里丘駅からのバスが近くを通過している。 駐車場が1箇所整備されている。

凡例

- 供用区域
- 自然環境保全・再生ゾーン
- 水辺環境保全・再生ゾーン
- 多目的利用ゾーン



緑化駐車場

管理所・トイレ

緊急用河川敷道路

フットサルコート

サッカー場（人工芝）

草地エリア

水辺から仁和寺大橋を望む

■鳥飼下地区：整備計画図



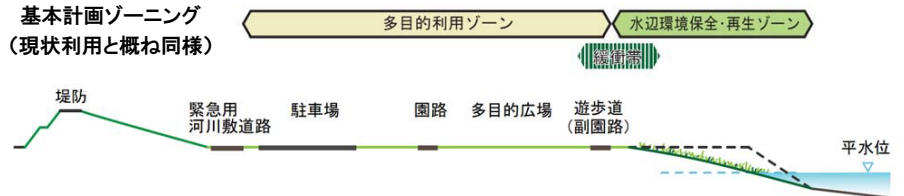
■鳥飼下地区：主な議題

●主な議題(案)		
提案内容	該当項目	提案理由
わんどの保全	【ゾーニング計画の実現】	・鳥飼下地区下流のわんど群について、良好な環境を保全するため、周辺雑木を伐採するとともに、浮草の除去などを行う。
多目的広場の整備	【魅力の向上】	・多目的利用ゾーン上流側について、橋や水面などの淀川らしい風景が近くにあることから、橋や水辺の景観を楽しみながらバーベキューなどができる多目的広場を整備する。
多目的広場の整備	【魅力の向上】	・多目的利用ゾーンにおける広場整備及び維持管理のモデル地区として、様々な遊びやイベント、運動など多目的な利用ができる場として多目的広場を整備する。

●整備イメージ



●整備断面イメージ



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。

※地域協議会での議論、予算状況等により変更となることがあります。

3. 参考資料

(1) 中流右岸域（高槻市域）の概要

1. 概要

- ・淀川右岸約 20.9km から約 33.3km の約 12.4km 区間。
- ・三島江地区、大塚地区の 2 地区が供用されている。
- ・三島江野草地区は、水際の切り下げを実施後、経過観察を実施中。

2. 特性と課題

<自然・文化>

- ・芥川との合流部付近は、古くから淀川の川港として発達し、江戸時代には高槻や富田の外港として唐崎浜や三島江浜に荷受問屋の蔵が建ち並んでいたと伝えられる。
- ・三島江浜は、古くから葦や月の名所だが、近世には三島江の渡しから、能勢の妙見山へ向かう参詣道ともなっていた。



三島江浜、唐崎浜の名残



舟運

<生物>

- ・草本群落ではオギ群落等の自然植生もあるが、セイタカアワダチソウ群落等の人為的攪乱を受けた植生がみられる。
- ・キイロサナエ（準絶滅危惧種）等の貴重種をはじめ、昆虫、鳥類、魚類等、多くの種類の生息が確認されている。



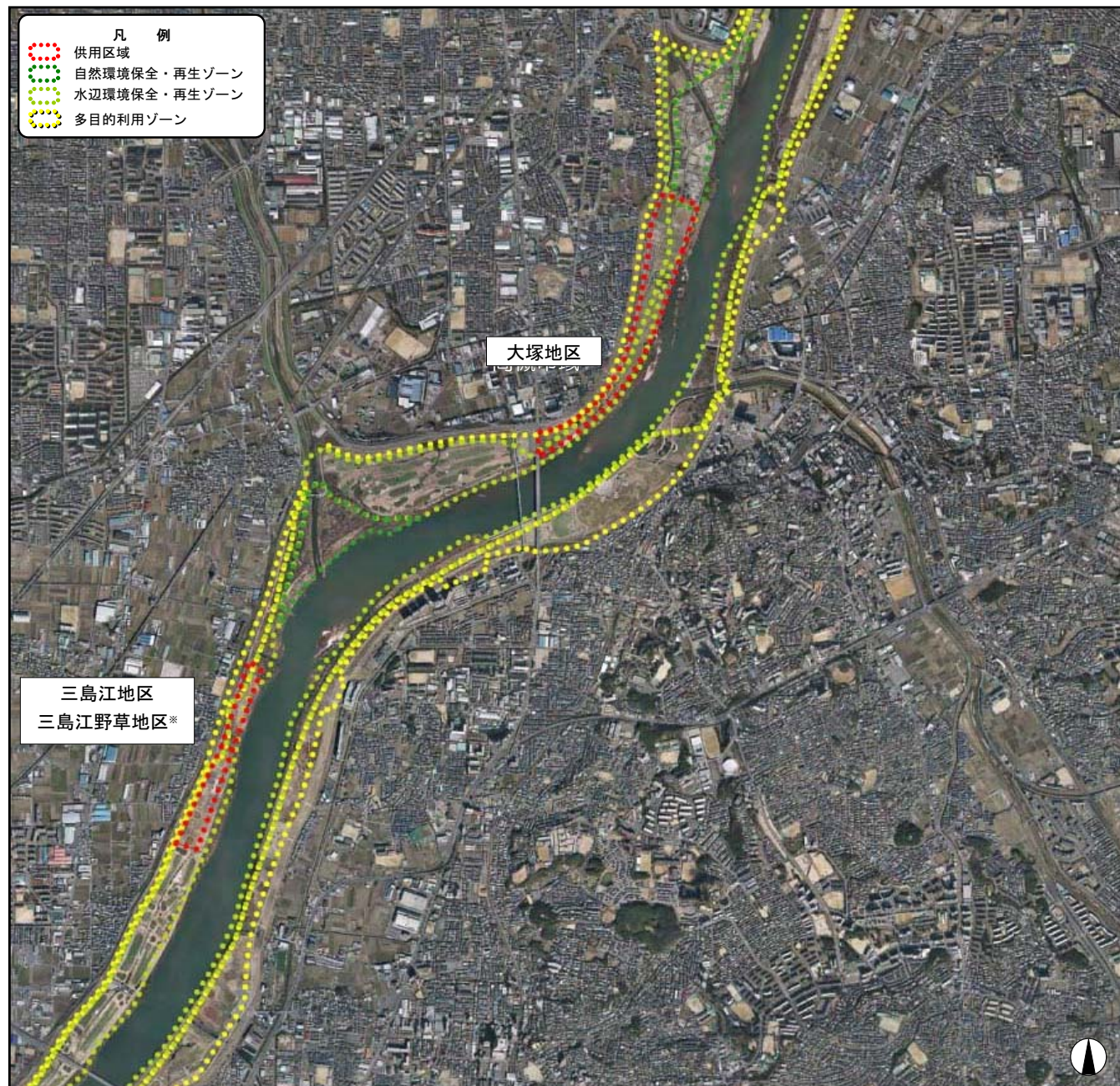
オギ群落



キイロサナエ

<交通>

- ・三島江地区、大塚地区の 2 地区とも、近隣に特筆すべき交通結節点（鉄道駅など）は存在しない。
- ・三島江地区の駐車場に入るには、芥川に架かる鷺打橋から堤防上を約 1.5 km 走行する必要がある。



(2) 中流右岸域（摂津市域）の概要

1. 概要

- ・淀川右岸約 15.9km（神崎川合流点）から約 19.0km の約 4.0km 区間。
- ・一津屋河畔地区、一津屋野草地区、鳥飼西地区、鳥飼野草地区、鳥飼下地区、鳥飼上地区の 6 地区が供用されている。

2. 特性と課題

<自然・文化>

- ・大化前代には、全国から牛馬を集めて訓練し、都へ供給する「鳥飼牧」が設けられていた。また「大和物語」には、宇多天皇が「離宮鳥飼院」を愛好したことが記されている。
- ・昭和 8 年から鳥飼下 3 丁目と寝屋川市仁和寺を結ぶ府営の「鳥飼の渡し」があった。
- ・古代から多く発生した洪水の都度借り出された農民が歌った「千本つきの歌」の碑がある。
- ・菅原道真が鳥飼の地に船を着け自ら揚枝松を植え、この木が生育することを願って建立した「三本松天神社跡」がある。
- ・洪水から年貢の米や生活品を守るため、家の床よりも一段高く石を積み倉を建てた段倉が市内に僅かに残っている。



鳥飼牧跡



離宮鳥飼院跡



大阪と伏見を行き来していた乗り合い客船（三十石船）



鳥飼の渡し（昭和 40 年頃）

<生物>

- ・淀川の特徴的なワンドが多数存在し、流水部とは異なった自然環境を有しており、生物相を多様化している。



ワンド

<交通>

- ・基本的に各地区とも、近隣に特筆すべき交通結節点（鉄道駅など）は存在しない。
- ・一津屋野草地区の上流端、鳥飼西地区の下流端である鳥飼大橋に沿って、大阪モノレールが通っており、南摂津駅は、鳥飼大橋右岸から約 600m 内陸に位置している。

